

京都サマープログラム2017

チューラーロンコーン大学文学部
プレーワー・ギアートマナグン
July 31 – August 10, 2017

このプログラムに参加している間、色々なことが勉強になりました。日本人学生と友達になることができ、日本のめずらしい文化や日本人の考え方など、彼らとさまざまな話をしました。自国では日本人の方と話すチャンスがあまりなかったため、京都大学で修学したこの2週間はたいへん貴重な機会だったと思います。そして、日本人学生だけではなく、自分と同じ東南アジアからの学生達と共に学びました。東南アジアからの学生達も日本語を勉強しており、彼らと比べ、自分の日本語がまだ未熟であることに気づきました。そのため、もっと頑張らなければならないと思っています。プログラムが開始する以前にタイの大学は夏休みの期間に入っていたため、あまり勉強する意欲がわきませんでした。プログラムが終了して帰国した今、さらに日本語が上達するように、一生懸命勉強を継続しようと意気込んでいます。日本語以外にも、さまざまな国の学生達が集まっていたので、異文化について理解を深める格好の機会にもなりました。

京都大学の学修環境はとても素晴らしいと思いました。建物が美しく、設備も充実していて、学生にとって便利なものが多いと感じました。特に、大学のキャンパスツアーの際に、京都大学についての詳しい説明を聞き、感動しました。また、京都大学のサポーター学生達にも親切にしてもらいました。サポーター学生達は同じ授業に出席していて、私が理解していない個所についていつも分かりやすく説明してくれました。さらに、授業後にも、色々なところに連れて行ってくれました。私はもともと関西弁に興味があったため、今回本物の関西弁、特に生の京都弁を聞くチャンスがたくさんあり、関西弁に対する興味の幅が以前よりも広がったように思います。

私が受講した日本語の授業は、題材（アニメやサイレント映画）や教え方が興味深く、授業の雰囲気も和やかでした。口語の特徴や文法について新しい事柄を多く学習しました。また、「学校教育に見る日本文化の諸相」、「日本語のウチとソト」といった講義を聴講し、日本の学校教育と部活動の点や、日本語のウチとソトおよび日本語の呼称の点などについて理解することができました。日本の色々な面について勉強になりました。共同発表でも、たくさんの国の人達と一緒にさまざまな国の面白い文化を互いに紹介し、交流の幅が広がりました。共同で発表することはとてもいい活動だと思いました。

このプログラムに参加している間、日本語学習に対して真剣に向き合わなければならないと強く感じるようになりました。私の夢は日本語の通訳になることなのですが、それを叶えるためにはこれまでの日本語学習のペースでは遅すぎるのだと気づかされたからです。どんなことがあっても乗り越えられるように、精神的にも自分を磨きたいと考えています。京都サマープログラム2017に参加するチャンスをいただいて、本当にありがとうございました。